

2021年度 児童養護施設 光明童園 事業報告

1. 事業目的・経営方針

スローガンである「和顔愛語」を基調に運営し、「よろこびあえる光明童園」を目標テーマとして、職員一丸となって利用者の支援にあたった。事業計画・生活指導計画など、新型コロナウイルスの影響もあり、計画通りに実行できなかったものもあったが、新しい生活様式や感染対策の徹底を図りながら、計画に沿った事業遂行に当たってきた。また、2020～2024年度の中・長期事業計画を見据えながら事業運営を行ってきた。

2. 組織体制

①入所者定員

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
定員	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70
措置児童(1日付)	58	57	59	64	64	62	63	65	68	68	68	68
一時保護(1日付)	4	5	2	3	4	3	5	4	2	0	1	2
入所率(1日付)	88.6	88.6	87.1	95.7	97.1	92.9	97.1	98.6	100	97.1	98.6	100
入所	0	3	5	0	2	2	2	1	2	1	0	1
退所	1	1	0	0	4	1	0	0	1	0	0	16

□1 定員：70名（本体施設34名、分園型小規模グループケア6名、地域小規模児童養護施設30名）

□2 入所児童：19名（未就学児5名、小学生11名、中学生2名、中学卒以上1名）

□3 退所児童：24名（進学4名、就職3名、家庭復帰13名、措置変更3名、その他1名）

□4 年間入所率：95.1%

②児童編成（2022.3.31）

	3歳未満	未就学児	小学生	中学生	高校生	大学/専学	その他	合計
男	0	2	15	9	4	0	0	30
女	0	2	12	4	5	0	0	23
合計	0	4	27	13	9	0	0	53

※一時保護児童含む

③職員構成（2022.3.31）

統括園長	1	副園長	2
ユニットリーダー	4	ケアワーカー	37
里親支援専門相談員	1	家庭支援専門相談員	2
心理療法担当職員	1	職業指導員	1
栄養士	1	看護師	1
調理員等	4	事務員	3
宿直専門員	8	ケアワーカー補助	6
調理補助	3	嘱託医	1
産業医	1	常勤職員 58名	非常勤職員 19名
			合計 77名

④職員配置 (2022.3.31)

	ホーム名称(児童数)	利用者性別	常勤職員	補助	宿直専門
本園ユニット (1F)	ぼだいホーム(4)	男	7	0	0
	ひすいホーム(5)				
	こはくホーム(5)				
	みのりホーム(1)				
本園ユニット (2F)	こころホーム(3)	女	8	3	0
	なごみホーム(1)				
	うららホーム(4)				
	かなでホーム(1)				
分園型小規模グループケア	くるみホーム(4)	女	4	0	1
地域小規模児童養護施設	慈光ホーム(5)	女	3	1	2
	和光ホーム(5)	男	4	0	1
	ひびきホーム(5)	男	3	1	1
	えそらホーム(5)	女	3	1	1
	いぶきホーム(5)	男	4	2	2

3. 児童処遇

【1】養護

①食育

※別紙1

- 1 ひかり農園で食物の栽培
- 2 リクエストメニューの実施
- 3 ホーム DE クッキングの実施
- 4 献立表に栄養量の表示

②健康管理

- 1 嘱託医健康診断 (4/2・9/4)
- 2 法定予防接種
- 3 その他任意の予防接種

③行事

※別紙2

県内外の感染状況を注視し、感染対策の徹底をはかりながら、ホーム単位での行事を計画・実施し、招待イベント等へも参加した。

④性(生)教育

- 1 性といじめのアンケートの実施(年2回)
- 2 『生と性プロジェクト』を性教育委員会として組織。

⑤情操教育

- 1 仏教こども新聞の配布

⑥家庭支援

※別紙3

6名の統括リーダーを中心に、児童相談所や市町村福祉課などの関係機関と連携を取りながら、家庭(保護者)支援・対応を行った。新型コロナウイルスの影響で面会・帰省等に関して対応できない際にはリモートでの交流等に積極的に取り組み、実施する際は、県内リスクレベルを基準に、段階的に交流を開始した。また、保護者へのバースデーカード等、より良い親子関係の構築へとつなげる為の取り組みも行ってきた。

⑦地域小規模児童養護施設

直接処遇職員 3～4 名と非常勤職員（ケアワーカー補助/宿直専門員）という職員配置のもと、5つのホームを運営してきた。6名以下の定員、完全調理という環境のもと、より家庭的で個別的な支援を行ってきた。また、地域行事にも積極的に参加している。

- 1 慈光ホーム（女子）
- 2 和光ホーム（男子）
- 3 ひびきホーム（男子）
- 4 えそらホーム（女子）
- 5 いぶきホーム（男子）

⑧分園型小規模グループケア

直接処遇職員 4 名と宿直専門員 1 名という職員配置のもと、運営してきた。地域小規模児童養護施設同様、より家庭的で個別的な支援を行ってきた。地域行事にも積極的に参加するなど、地域の方たちとのより良い関係を築けるよう取り組んできた。

- 1 くるみホーム（女子）

⑨ライフストーリーワーク（以下 LSW）の実践

- 1 利用者一人一人のアルバム作成
- 2 より良い自立支援や家庭支援につなげる為、LSW に関する事案やそれに伴う利用者の『つぶやき』を全体で共有する場を設けた。（月 1 回）
- 3 年 2 回行われる『性といじめのアンケート』にて、生い立ちや入所理由について触れ、利用者の生い立ちの整理等に努めた。
- 4 『つむぐ』を LSW 委員会として組織。

⑩ホーム単位での誕生日会

園からバースデーケーキ代を支給し、利用者の誕生日にホーム単位での誕生日会を行った。さらに、ホーム内で日程調整を行い、誕生者のリクエストに応じた外食またはホーム調理を、感染対策を徹底したうえで実施した。

【II】自立のための援助

①自立支援

※別紙 4

- 1 社会体験計画の実施
一人につき、3,000 円支給。今年度は 2 名申請。（熊本市内・福岡県）
- 2 外食や調理実習、おやつ買い物学習の実施（幼児・小学生対象/毎週日曜）
- 3 携帯電話所持（中学生以上）
- 4 フリータイムの導入（日曜朝）
- 5 計画的な措置延長の実施
- 6 職業指導員の配置

②リービングケア

- 1 退所時に必要となる助成金等の申請
- 2 就労希望者に対する支援
- 3 ブリッジフォースマイル主催の「巣立ちセミナー」への参加

③就職・進学・学習指導

1 就職

株式会社ヒライ、陸上自衛隊健軍駐屯地

□2 進学

【大学・専門学校】

筑紫女学園大学、熊本学園大学、九州技術教育専門学校、山野美容学校

【高等学校】

水俣高等学校、芦北高等学校、勇志国際高等学校、湧心館高等学校、芦北支援学校佐敷分教室

□3 学習塾

熊本進学ゼミ

□4 アルバイト

サービス業、農業など、短期間のものも含め、高校生や就労支援中の児童 4 名が様々なアルバイトを行った。

【Ⅲ】アフターケア

①退所児童への支援

- 1 退所児童への新型コロナウイルス感染症関連の助成金の紹介
- 2 ひかり便による物資支援
- 3 バースデーカードの郵送
- 4 引っ越し支援
- 5 SNS を活用した様子伺い
- 6 奨学金や助成金等に関する書類作成や提出に関する支援

4. 職員処遇

①人材育成

※別紙 5

- 1 新任職員研修 (4/1、7/5)
- 2 援助技術研修 (7/8)

西南学院大学人間科学部社会福祉学科教授の安部計彦氏を助言者として依頼し、午前を本体施設、午後を地域部門に分け、オンラインでケース検討会を行った。

□3 リーダー研修

毎月行われる就業改善委員会後に、委員会参加職員を対象としたリーダー研修を園長が講師となって行った。

②人材確保

- 1 積極的な実習生の受入れ
- 2 実習生の受入れマニュアルを活用し、施設の特徴を活かした実習プログラムを実施し、児童養護施設に対する興味・関心を高く持ってもらえるよう配慮した。
- 3 オンライン説明会の実施 (9/5、9/19、10/3)
- 4 熊本県社会福祉協議会主催「保育のおしごとフェア 2021」への参加 (11/13)
- 5 採用面接試験の実施 (10/10)
- 6 新規学卒者に対し、住居手当を追加で毎月 10,000 円補助 (入職後 1 年間迄)

③委員会活動

※別紙 6

【生と性プロジェクト】(性教育委員会)

□1 全職員に対して、『子どもに性教育をする大人のチェックリスト』を実施し、日常生活における『利用者の性』と向き合う職員の意識向上を図った。

【チーム広報】(広報委員会)

□1 広報誌『ひかりっ子新聞』を年 2 回発行 (5 月・1 月)

2 ホームページのスタッフブログの投稿（月2回程度）

3 インスタグラムの投稿（週4回程度）

4 パンフレットの訂正

【ボラン家】（ボランティア委員会）

1 ボランティア数7名（生活見守り2、英語教室1、絵画教室2、歯科ボランティア1、読み聞かせ1）
英語教室、絵画教室については児童の生活空間で活動を行わない為、新型コロナウイルス感染症の感染レベルが落ち着いたときに限り実施（生活見守り、絵本読み聞かせ、歯科ボランティアは生活空間での活動のため年度通して活動休止）

2 クリーン活動の実施

委員会の呼びかけで参加を希望する児童・スタッフで清掃活動を行った。

[第1回] 8/1(日) 10:00～10:30 ※県内のコロナ感染リスクレベル上昇に伴い中止

[第2回] 11/23(火) 10:00～10:30 光明童園敷地内、地域ホーム周辺のごみ拾い 計60名参加

3 熊本県社会福祉協議会主催のボランティア担当者オンライン研修に2名の職員が参加（11/10）

【SKI】（就業改善委員会）

1 OH会の計画

2 第三者評価の結果に伴う改善点の検討

3 利用者アンケートの結果に伴う改善点の検討

4 職員アンケートの結果に伴う改善点の検討

5 オンライン説明会、採用試験の計画

【つむぐ】（LSW委員会）

1 県内で毎月行われているライフストーリーワーク（以下LSW）の勉強会に参加。

2 アセスメントシート作成の為の会議の実施（月1回）

3 対象児童を決め、担当職員と共にLSWの実践を行った。

【HKP】（働き方改革プロジェクト）

1 勤務状況、働き方に関するアンケートの実施

2 アンケート結果をもとに、職員会議にて課題解決について検討

④福利厚生

1 職員慰労会の場として、紫光ホールの提供

※事前に計画書の提出を前提とし、アクリル板の活用、少人数、短時間等を条件に実施

2 職員健康診断の費用負担

3 インフルエンザ予防接種費用の半額負担

4 7連休取得の奨励

7連休取得率：35%

5連休取得率：48%

8割以上の職員が5連休以上を取得（※非常勤職員、中途採用者は除く）

5 誕生日休暇の奨励

6 住居手当の支給 ※新規学卒者は追加で毎月10,000円補助（入職後1年間）

7 コロナワクチン接種副反応に伴う特別休暇

8 産前産後休暇、育児休暇

9 資格取得助成金

⑤スーパービジョン体制

□1 スーパービジョン面接

スーパービジョン面談用紙を用い、直近上司との面談を毎月実施。部下からの相談や次回面接時までの目標の設定や具体的に取り組むことについて共有し、職員のモチベーションアップやケアの質の向上を目的とした面談を実施した。

□2 OJT (On the Job Training) 面談

OJT 面談用紙を用いて、直近上司と目標設定面談を年度当初に実施。半年ごとに達成状況について振り返りの面談も実施した。

□3 人事考課面談

人事考課表をもとに、半年ごとに業績評価、意欲・能力の評定について客観的事実をもとに自身で振り返り、評価項目ごとに5段階の自己評価表を作成。『期待される職員像』を基準とした、あるべき自分とありたい自分について直属の上司2名も交えて共通理解を図り、エピソードとともに振り返りながら考課表を完成させ、職員としての質を高めることにつなげていった。

⑥就業状況の改善

□1 意向調査を目的としたアンケートの実施（9月）

□2 年休取得状況一覧の定期的な配布

□3 就業改善委員会（SKI）を毎月開催

⑦衛生委員会

※別紙7

□1 衛生委員会を設置し、労働者の健康障害の防止及び健康の保持増進を図った。

5. 権利擁護

①権利擁護及び苦情解決体制

□1 第三者委員会会議

2020年度分の苦情報告会議の実施。(5/13) 2021年度は年間24件の苦情があった。

□2 ホーム会議

4・7・9・12・3月にホーム単位での会議を実施。それぞれ目標の設定や振り返り、希望食や要望事項の確認を行った。要望事項に関してはホームごとに対応できることが殆どで、特に緊急性のある要望等はなかった。

□3 利用者用事業計画の説明の中で権利擁護に関する説明

□4 児童相談所訪問調査

□5 児童養護施設における人権擁護のためのチェックリスト

児童養護施設における人権擁護と人権侵害の禁止・防止、適切な支援を行うことを目的とし、全職員でチェックリストをもとに自己点検を行った。本年度は地域部門が9/21と2/21、本園部門が9/22と2/22に行った。結果はともに90項目中、○:90・×:0という結果だった。

□6 不適切なケアの予防のための自己チェックリスト

人権侵害の防止・虐待防止・職員の姿勢に関する事など、様式を新たに69項目設け、職員自身の利用者に対する支援を振り返るとともに、虐待防止に対する意識を高く持ち続けることを目的とし、半年に一度自己評価を行い、スーパービジョン面接において直近上司とも共有を図った。(9月・3月)

□7 子どもの権利条約に関する学習会（5月の職員会議）

6. 危機管理

①防災

※別紙8

□1 防災避難訓練を実施

②防犯

□1 水俣警察署生活安全係・ALSOK 共同で不審者侵入を想定とした防犯訓練を計画していたが、コロナ感染の状況を考慮し、防犯に関する DVD 視聴をホーム毎で実施した。

③事故防止

□1 事故防止委員会を毎月開催

ヒヤリハット事案の見直しを行い、事件・事故の再発防止のための改善案の検討を行った。

ヒヤリハット事案 総数：954 件

環境的要因	770 件	怪我（受診には至らない）	97 件
怪我（受診に至る）	3 件	怪我（数日間の治療や経過観察）	10 件
性的問題	74 件	合計	954 件

7. 地域交流支援

①地域交流・支援

□1 広報誌の発刊（5 月・1 月）

□2 5 区ハートフルへの参加

□3 職員派遣

【園長】

■水俣市教育委員 ■水俣市社会福祉協議会評議員 ■水俣市民生委員推薦会委員 ■保護司 ■水俣市子ども・子育て会議会長 ■熊本県立水俣高等学校いじめ防止対策委員会委員 ■水俣・芦北地域教育支援連絡協議会委員 ■熊本県養護協議会行事委員 ■水俣高校同窓会役員 ■水俣市男女共同参画審議会委員 ■浄土真宗本願寺派全国児童養護施設連絡協議会会長 ■浄土真宗本願寺派熊本教区実践運動教区委員会常任委員 ■熊本県社会的養育推進計画 WG 委員 ■浄土真宗本願寺派社会福祉推進協議会委員 ■浄土真宗本願寺派熊本教区重点プロジェクトリーダー

【家庭支援専門相談員】

■水俣市教育支援委員 ■水俣市自立支援事業連絡協議会委員

【里親支援専門相談員】

■少年補導員

※その他、学校 PTA 役員、水俣市消防団への参加

②里親支援 ※別紙 9

□1 里親支援専門相談員の配置

新規里親の開拓、里親制度普及と啓発のための活動等行った。また、家庭生活体験事業の窓口としても活動し、本年度は夏季：1 名、冬季：1 名の利用があった。

③子育て短期支援事業

□1 ショートステイ

	水俣市	出水市	津奈木町	芦北町	伊佐市
利用日数	0	0	0	0	0
利用者数	0	0	0	0	0

□2 トワイライトステイ

	水俣市	出水市	津奈木町	芦北町	伊佐市
利用日数	0	0	0	0	0
利用者数	0	0	0	0	0

8. 施設整備

□1 車両購入

9. その他

① 後援会組織 ひかりどうえんを支える会

平成 19 年より発足し、児童の自立支援の為に、自動車運転免許取得費用や就職進学準備金の貸し付けや助成等、幅広い支援があった。また、地域において施設への理解を深めていく事にもつながっている。今後も積極的に広報・募集活動を行っていく。